

# デザイン思考を活用した新たな行政課題の解決方法～小千谷リビングラボat！おぢやの取り組みについて～



新潟県小千谷市にぎわい交流課複合施設開設準備室 特命主査  
土田 昌史

## はじめに

新潟県小千谷市では「小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」が令和6年9月28日（土）にオープンします。この施設は、図書館機能、郷土資料館機能、子育て支援機能、市民交流・創造機能、カフェが同居する融合施設（図書館等複合施設）です。

中心市街地である本町地区（本町商店街）で100年以上にわたって立地し、地域医療の中心的な役割を果たすだけでなく、中心市街地における賑わいや交流の創出に寄与してきた公益財団法人小千谷総合病院の跡地に、中心市街地の新たな顔として、人の流れをつくり、活力と賑わいを再創出していくことが期待されています。

本研修では、小千谷市が直面するまちの課題に対するアプローチとして、多様な主体の<共創>によって進める図書館等複合施設事業（以下、「本事業」という。）と、その<共創>の場である「小千谷リビングラボat！おぢや」をどのようにデザインし取り組んでいるかについてご説明します。



## 小千谷市の現状

小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置し、令和5年4月1日時点での人口は33,457人、世帯数は12,899世帯、高齢化率は36.0%となっ

ています。まちの真ん中を信濃川が南北に縦断するように流れており、その信濃川によってつくられた河岸段丘上にまちが形成されてきました。また、日本有数の特別豪雪地帯であり、雪解け水がもたらす美しい自然や田園は、小千谷特有の文化や工芸品を育み、多彩な伝統産業が息づいています。平成16年10月23日には「中越大震災」に見舞われましたが、震災直後から全国のみなさまからの温かいご支援・ご協力も得て、復旧復興を果たしてきました。

昭和の大合併時に現在の市域になって以降、現在の用途地域を中心にまちづくりが進められてきた結果、人口は用途地域内に高い比率で集積し、それに合わせて生活利便施設や公共施設といった都市機能も集積し立地されてきました。また、JR小千谷駅は、市民の日常的な交通手段となっており、市内外を連絡する民間路線バスはその多くが中心市街地である本町地区（本町商店街）を結節点とするなど、コンパクトな都市構造が既に形成されています。一方で、今後、用途地域内でも予想される人口減少、少子高齢化は、地域の活力低下、生活利便施設や公共交通のサービス低下などを引き起こし、コンパクトな都市構造を支える用途地域の拠点性を維持することが難しくなることが懸念されています。

こうした状況を踏まえ、小千谷市立地適正化計画（平成29年3月策定）では、まちづくりの方針として、①用途地域内の人口規模を維持する、②中心市街地を活性化し、用途地域の拠点性を更に高める、③公共性のある交通手段を強化することを掲げ、関連する上位・関連計画に位置づけられた施策などを実行し、居住及び都市機能の誘導を促進することとしています。その誘導施策の一つに、中心市街地である本町地区（本町商店街）で進める本

事業があります。

## まちが不自由で窮屈

今や多くの人々が利用するインターネット上のサービスは、プラットフォーム（基盤）だけを提供し、そこでの活動はユーザーに委ねられており、時間と場所の制約を越えてユーザー同士がつながり、モノを売ったり買ったり、ユーザー自身がコンテンツをつくり出し分かち合うなど自由に楽しむ姿があります。一方で、リアルな世界に目を向けると、まちの中に溢れる公共空間・施設は、自宅・学校・職場以外の第三の居場所としての役割を期待されながら、そこにはたくさんの禁止事項が貼られ、活動が制限された窮屈な空間が広がっているように感じます。また、まちの中で居心地よく過ごすには、お金を払って場所・時間・サービスを分け与えてもらわなければならないっており、消費者としての役割を果たさなければ、まちの中に滞在することは難しくなっています。

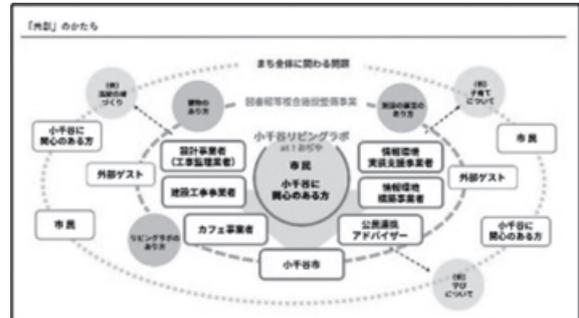
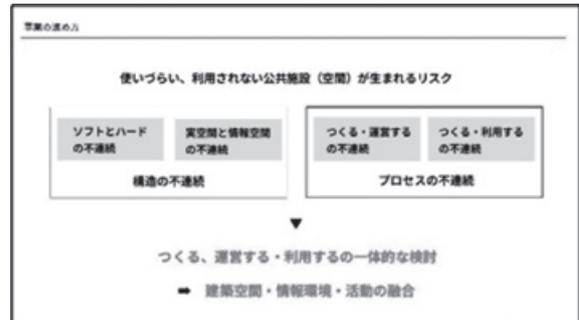
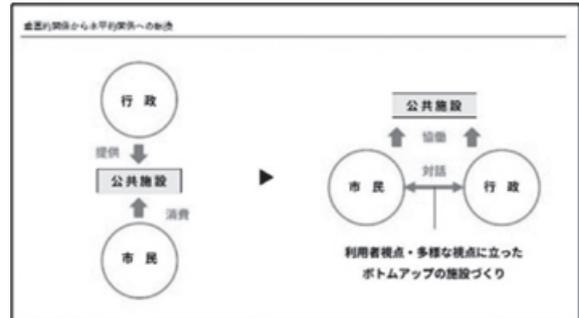
まちは、目的をもって意識的に行くところであり、目的を果たすとまちからいなくなってしまう。いろいろな人々が用もなくまちの中に出てきて思い思いに過ごしている、そんな自由な行動が共存する公共空間・施設をつくる(取り戻す)にはどうしたらよいだらうか。

本事業では、そんな問いを出発点にして、多種多様な人々にとっての日常の居場所＝「みんなの広場」をつくることを目指しています。日常をつくるのが日常的な賑わいを生み、中心市街地における賑わいの創出につながると考えています。

## プロセスを変える

アウトプットを変えるために、プロセスを見直すことにしました。行政がハコモノをつくって市民に提供するといった従来の垂直的関係ではなく、ビジョンを共有しながらボトムアップによるユーザー視点の施設づくりを行うという水平的関係への転換です。

そのため、本事業では、事業全体のテーマとして<共創>を掲げ、“わたしたちの施設づくり、まちづくり”を目指し、市民、民間事業者、行政など多様な主体がともに考え、想いを共有



しながらつくっていくことを行っています。

「つくる」「運営する」「利用する」が一体となった検討を行うことで、利用しづらい・使いづらい公共空間・施設が生まれるリスクを避け、いつの時代も「みんなの広場」として機能し続けるための施設整備をみんなで考えながら進めています。

## 対話力が平等・対等な関係を築き未来を拓く

本事業では、<共創>を推進するために、積極的に行政情報の公開と市民参画機会の創出を図りながら「対話」することを大切にしています。

「対話」とは、自分以外の他者と相互に理解しあうために言葉を交わすことです。「対話」の持つ効能を以下のように考えています。

- ・自分が当たり前だと思っていたことについて、実はみんな異なる意見を持っていることに気づき、問い合いながら吟味していく中で、自分の考えが以前よりも深く、豊かになっていく。その経験を通じて、粘り強く

デザイン思考を活用した新たな行政課題の解決方法  
小千谷リビングラボat！おちやの取り組みについて

研修紹介

## 研修紹介 研修1 デザイン思考を活用した新たな行政課題の解決方法

実施年度	内容
令和2年度	施設設計業務公募型プロポーザル第二次審査（市民公開）※一者あたりプレゼンテーション（20分）及びダイアログ（70分）
令和2年度～	小千谷リビングラボat！おぢや
令和5年度	情報環境構築業務公募型プロポーザル第二次審査（市民公開）※一者あたりプレゼンテーション（20分）及びダイアログ（70分）
	カフェ運営事業者選定公募型プロポーザル第二次審査（市民公開）※一者あたりプレゼンテーション（20分）及びダイアログ（70分）
	施設愛称（愛称の公募、愛称選定委員として市内2つの高校からも1名ずつ選出）

考え続けるたくましい思考力の態度が育つ。

- ・ 普段考えないことを考えることで、心の深層にある問題意識や興味・関心を引き出し、それを共有することで新しいアイデアや人との交流が生まれ、新たな活動の種となる。
- ・ 互いの価値観や課題認識を尊重できるようになることで、人と人の連携、連帯が広がる。この結びつきの強さが社会を支える基盤となる。

グローバル化や価値観の多様化が進む現代社会では、これまで以上に多様な人々との共生が求められています。互いの意見を尊重しあいつつ考える「対話」は、互いに理解しあい、互いに変わっていくことを促し、ともに生きていくことを可能にするとともに、多様な経験や考え方、視点などの掛け合わせによって新たな知を生むイノベーションの基盤をつくるうえでも有効な手段と考えています。

本事業では、上記表に記載している施設整備プロセスにおいて「対話」を意識的に取り入れることで、<共創>によって生まれる新たな価値創造に取り組んできました。

### 小千谷リビングラボ at！おぢや

本事業では、施設設計段階から<共創>を実践する場＝対話と活動のためのプラットフォームとして「小千谷リビングラボat！おぢや」（以下、「at！おぢや」という。）を立ち上げ活動しています。子どもから大人まで、小千谷市民のみならず、本事業に関心がある方なら誰でも参加可能なひらかれた場として、施設設計者などの民間事業者や行政職員も参加し、多様な主体による対話を重ねています。

対話の場づくりにおいては、以下の9つのグランドルールを守ることで「居心地のよさ」をつくることを大切にしています。

- ・ 何を話してもいい。意見が変わってもいい。
- ・ 人の発言に対して否定的な態度をとらない。

- ・ 対話の時間を大切にする。発言は1回につき1分におさめる。
- ・ 黙って聞いて考えているだけでもいい。
- ・ お互いに問いを投げかけることが大切。
- ・ 知識ではなく、自分の経験に即して話す。
- ・ 話がまとまらなかったり、わからなくなってもいい。
- ・ みんなで黙ってもいい。
- ・ まとめなくてもいい。

多様性を基本に据えて、人はみんな違うということを当たり前のこととして受け止め、すべての人が等しく受け入れられる場所としての意識を持つことが、「対話」の場にいる必要最低限のマナーとなります。

また、「居心地のよさ」をつくるためには、単に自分を解放するだけでなく、他者への配慮も必要になります。その心地よさを維持するために、その場にいる自分がどうふるまわなければいけないのか考えなければいけません。



<これまでのat！おぢやの内容>

回	開催日	内容	参加者数
第1回	令和3年3月21日(日)	【共有】事業説明 【対話・創造】①「リビングラボのあり方」、②「リビングラボの愛称を考える」	73名
第2回	令和3年5月8日(土)	【共有】事業説明、施設設計者の紹介 【対話・創造】①「おぢや体験マップをつくろう」、②「体験を実現するための問い出し」	77名
第3回	令和3年6月19日(土)	【共有】事業説明、施設設計の説明 【対話・創造】「体験パターンを設計案にマッピングしよう+考えた体験を実現するための問い出し」	72名
第4回	令和3年7月22日(祝)	【共有】事業説明、施設設計の説明 【対話・創造】「体験の環境を想像しよう+考えた体験が実現するための問い出し」	71名
第5回	令和3年10月10日(日)	【共有】事業説明、施設設計の説明 【対話・創造】①「あそびの体験を掘り下げよう」、②「あそびの体験を共有しよう」	83名
第6回	令和3年12月18日(土)	【共有】事業説明、施設設計の説明 【対話・創造】アンカンファレンス	78名
第7回(オンライン)	令和4年2月12日(土)	【共有】事業説明 【対話・創造】トークセッション：①「みんなと自然が共鳴する建築～at!おぢやによってこれから起こること～」、②「at！おぢやのこれまでとこれから」	—
第8回	令和4年5月22日(日)	【共有】事業説明、設計検討プロセスの説明 【対話・創造】①「リビングラボのあり方」、②「新潟工科大生との連携プログラムプレスト」	70名
第9回	令和4年7月27日(水)	【共有】事業説明、施設設計の説明 【対話・創造】ゲストトーク「集まり動かす、地域にひらく」+ミニワーク	59名
第10回	令和4年10月2日(日)	【共有】事業説明、カフェサウンディング型市場調査の説明 【対話・創造】「発+作アンカー、食アンカーでのプログラムの企画書をつくろう」	46名
第11回	令和4年12月4日(日)	【共有】事業説明 【対話・創造】「展、和+会、趣アンカーでのプログラムの企画をつくろう」	52名
第12回	令和5年2月12日(日)	【共有】事業説明、新潟工科大プロジェクト・ホンダナ～活動報告 【対話・創造】「持ち寄った古い写真で思い出を語り合い、展示しよう!」	40名
第13回	令和5年5月14日(日)	【共有】事業説明、愛称募集にあたって 【対話・創造】「わたしたちの施設」の愛称を考えよう!」	33名
第14回	令和5年7月30日(日)	【共有】事業説明 【対話・創造】「ひと箱の本棚づくりから「わたしの世界」を表現しよう」	35名
第15回	令和5年10月30日(月)	【共有】事業説明、マルシェヤタイの説明 【対話・創造】座談会：「カフェ×ひと・まち・文化～“交差点”をつくる～」	50名

at！おぢやの活動の詳細は、下記URLをご覧ください。

小千谷市HP：<https://www.city.ojiya.niigata.jp/soshiki/nigiwai/livinglab.html>

at！おぢやInstagram：[https://www.instagram.com/ojiya\\_livinglab/](https://www.instagram.com/ojiya_livinglab/)

ん。そのことをすべての参加者が理解し行動できなければ居心地のよさは実現しません。これはこの事業で目指す「みんなの広場」をつくり利用するうえで、とても大事な考え方です。

at！おぢやは、まだまだ市民の認知度が低いことや、多様な活動を生むプラットフォームとして機能するために試行錯誤を繰り返している状況ですが、じっくりゆっくりと育てていきたいと考えています。「対話」のスキルやマナーを身に付けた人が増え、対話の文化が根付くことが、多様な人々が共生する社会を築くことに貢献すると考えているからです。

このまちで暮らす人々が、他者と共存しながら思い思いに自分の暮らしを楽しんでいる姿こそまちのディスプレイであり、「ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」の整備を契機と

してそんな光景がまちの中にたくさん生まれることを期待しています。小千谷市は今、チャレンジの真っ只中にいます。

著者略歴

土田 昌史 (つちだ・まさふみ)

2003年4月に小千谷市役所に入庁。税務課、社会教育課、社会福祉課、生涯学習スポーツ課を経て、2019年4月から図書館等複合施設整備事業に従事(建設課、にぎわい交流課)。主に病院建物の暫定活用、サウンディング型市場調査の実施、公募型プロポーザル(官民連携支援業務、施設設計業務、情報環境構築業務、カフェ運営事業者選定)の企画・実施、小千谷リビングラボat！おぢやの企画・運営、施設愛称の公募・選定、管理運営計画の策定などを担当。

\*肩書は2023年10月当時のもの